

和光市立第二中学校長 橋本 真

令和4年度を迎えて、今年度13名の新しい教職員を迎えて、令和4年度がスタートしました。今年度も、保護者や地域のみなさまと共に、本校の学校教育目標を達成するため、教職員一同力を合わせてまいります。本年度も和光市立第二中学校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

- |                                  |
|----------------------------------|
| 一 物事を正しく判断し、進んで学習する生徒。           |
| 二 粘り強い気力を持ち、体力の向上に取り組む生徒。        |
| 三 奉仕の心と感謝の気持ちを持ち、礼儀正しく思いやりのある生徒。 |

さて、学校教育目標にある3つの内容について、説明します。

まず第1は、「深く考え、すすんで学ぶ」ということです。この「考えること」と「学ぶこと」は大変深くつながっています。「なぜなのだろう」と考え、考えた結果が、自分に身につく、そのことが学ぶこととなります。結果がうまくいかなかった時でも、そこから学ぶことができます。

第2は「たくましく鍛え、みずから創る」ということです。鍛えるという言葉には、たくさん運動をして、身体を逞しくすることを想像すると思います。もちろん、そうやって体を鍛えることは大切なことです。中学生として適切に運動して、食事を摂って健康な体を創ってほしいと思います。この言葉にはもう一つの意味があります。それは、心を鍛えるということです。今、やるべきことを確実に行うためには、心を鍛えなくてはなりません。それが、「たくましく鍛える」ということになるのです。ぜひ、心も身体も鍛えて、人として成長してほしいと思います。

第3は、「温かく思いやり、正しく行う」ということです。人間は一人では生きていけません。家族や仲間、学校などといった、様などの集団に所属して生活しています。学校の中でも、学級や学年、委員会、部活動といった様々な集団があります。そういった集団の中で生活するためには、相手のことを考えて行動しなくてはなりません。その基本となるのが周りの人たちへの思いやりです。思いやりがあればこそ、お互いに協力して支えあって生活することができるものです。思いやりの心は決して忘れてはならないものです。

今、まさに、変化の激しい情報化社会、長引くコロナ禍、自然災害、戦争など、生徒たちの周りを取り巻く社会は、予測困難な状況となっています。このような社会を生き抜くためには、生徒自身が主体的に学び、自ら考えて課題を解決する力が必要となります。また、改正民法が4月1日より施行され、成人年齢が20歳から18歳に引き下げられました。4月生まれの生徒は、中学校を卒業して2年あまりで成人となります。中学生にとって成人は、決して遠い未来ではありません。これらのことを踏まえ、本校生徒が「自分で考えて判断できる力を持ってほしい」と期待しています。中学生は、大人への階段を上っている途中にありますので、まだ未成熟な部分が多くありますが、少しずつ自分の力でいろいろなことが出来るようになっていきます。保護者や地域のみなさまにも、引き続き見守りとご支援をいただきたいと思ひます。

